

両親の静かな戦い

成羽中学校 三年

ひだ さらさ
田田 柏沢

毎夜の私の両親の戦い。それはお風呂である。父と母の静かなる格闘が今夜も始まつた。

私はどちらの味方にもつかず見て見ぬふりをする。いつもの母のささやかな作戦が功を奏し、父はまんまと母の思い通りの行動をとり母の作戦は見事に成功する。

母の希望。それは「母より先にお風呂に入つて欲しい。」だ。母は、お風呂上りにお風呂の栓

を抜き、お湯を流しながら浴そうの壁や洗面器を洗い、換気扇をつけ、次の日の家事を少しでも減らすよう工夫したいのだ。それも母のやり方があり、シャンプーのボトルの底がヌルヌルしない様、毎回スポンジで洗い、シャワーのヘッドを置く位置まで決まっており、毎日清潔にすることを心がけている母の真似は誰にもできないのだ。

しかし、お風呂でさっぱりした後に、お風呂

そうじでまた汗びっしょりになる母を見て私は、「最後に入った人がそうじする様にしたらいいのに。」

と提案してみた。すると母は、

「最後がお父さんだったら大変。お父さんは浴槽の底を丸く洗う人だから。あ、これは悪口じゃないからね。そこがお父さんのいい所もあるし。」

と、わけのわからぬことを言つて笑つた。「どこがいい所なんだろ。単に雑つてことだけよね。」

と私は思った。

母の作戦とは、小さなメモをテレビのリモコンに貼つておくことだ。ここには父の行動をよく知る母の作戦の一つがある。仕事から帰った父が一番に手にとるのがテレビのリモコンであり、それに貼つたメモを必ず目にすると、このよみである。冷蔵庫の扉でも、玄関でもダメ、リモコンにメモを貼るという母の作戦がわざわざはあるが的中百パーセントである。

そのメモには父がするべきことが具体的に書

かれている。

「①夜ご飯は冷蔵庫の中にセットしてあります。

②メインはフライパンの中にあるのでレンジ

でチンしてください。

③二十時までにお風呂をでておこしてください。」

①②で仕事で疲れた父のやる気が少しでも出る様、おかげやお皿、はしなどをセットしたトレーごと冷蔵庫に入れ、父の負担を減らすための工夫がされている。

母の本命は③の指示である。父が食後、うとうと居眠りをしない様にお風呂を出る時間を明確に示している。

二十時に母と私が帰宅すると、ちょうどお風呂から出たばかりの父が、

「お帰り」

と言つて出迎えてくれる。

「よしよし。今日も作戦通り。任務完了。」

とにかく笑う母の小さな声がきこえてきた。

順調に進んでいた作戦がある日帰宅すると部屋から怪獣のような声に似たいびきがきこえ

てきた。しかもお風呂は母が前日洗つたまま、父が入浴した形跡はない。

「どうしたの!?」

と母はびっくりして熟睡している父にかけ寄る

と父はゆつぐり目を覚まし、

「よく寝た!!」

と気持ち良さそうにのびをした。

この日の作戦は失敗に終わったが母は、父が体調を悪くして入浴できていないのかと心配した様子だったが私は、

「あんなゴジラがほえる様ないびきをかいてい

たんだから、ただ眠かつただけじゃないの。」

と心の中で思つたが黙つていた。

父はいたつて元気であることを確認した母は作戦失敗よりも安堵の気持ちの方が大きく、

「疲れていたなら寝るのもしようがない。もし

かしたらメモの内容が毎回同じだから飽きて

きたんだな。次から工夫しよう。」

と考えをぬぐらせていくようだった。
母の気持ちの切り替えの早さと父のまじめで
自由な性格でお互いにゆずり合つてゐる様に感

じた。

二人の静かな戦いに私は全く巻き込まれていないが母の作戦に父がまんまとはまり誰も傷付くことなく、嫌な思いもせず気付けば夫婦一人で協力し合って翌日の母の家事を減らすことに成功している。母の機嫌が良いことが私の両親の夫婦仲の秘訣である。

今夜も母の工夫されたメモで平和な一日が終わるのである。